

第49回衆議院議員選挙 比例代表 九州ブロック

公明党 金城泰邦 様のご回答

●質問①

1－同じ過ちを繰り返さないために、情報公開は必要と考えますか？

○

理由（原因究明を行った上で、今後の対策に活かすためには情報公開は必要である）

2－それとも、国や県の当局だけが状況を把握すべきだと考えますか？

×

理由（情報を公開しなければ、県民は国や県を信用しなくなり、感染防止対策等を国や県が発表しても誰も協力しなくなる）

●質問②

1－現在、県の保健部で調査検証作業が行われています。それで十分と考えますか？

×

理由（県保健部のほか、第三者の専門機関調査検証が必要）

2－新たに第三者委員会などを設け、より専門的な調査検証をすべきだと考えますか？

○

理由（恣意的な調査にならないよう、第三者機関で行うべき）

●質問③

第六波が来た場合、精神病院では再びクラスターが発生すると思いますか？

○

理由（徹底した調査検証を踏まえた予防対策のない限り、起こり得る）

●質問④

もし第六波が来て精神病院で再びクラスターが発生した場合、どうすべきだと思いますか？

ア. 院内でゾーニングなどの努力をし、専門スタッフを拡充して対処すべき

○

理由（感染拡大を防ぐためには、可能な限りゾーニングを行うべき）

イ. 院内でのゾーニングは困難と判断し、コロナ陰性患者をホテルなどに移送すべき

○

理由（可能な限り院内で対応し、感染していない方はホテルへ移設も必要）

ウ. 陽性患者全員が専門病院で治療を受けられるよう、日本本土の病院へも転院させるべき

×

理由（高齢者の移動の対応は非常に困難になると予想され、県内で対応する方が現実的な対応と思われる）

エ) その他の可能性

()

認知症は地域でケアをするのが、世界のスタンダードです。しかし、日本では精神病院が受け皿になっています。精神病院は閉鎖性が高く、一般市民が内部状況を把握しにくい現状があります。コロナ禍では、厳しい面会制限により家族ですら患者の状態が分からない事態が生まれました。

その閉鎖性が、ゾーニングやディスタンス確保などを取りづらい状況を生み出し、必然的にクラスター発生を呼び込んだと言えます。

●質問⑤

1－認知症患者が、精神病院に入院して晩年を過ごすことはやむを得ないと考えますか？

×

理由（現状はやむを得ない状況もあるが、認知症の人の尊厳が守られ、希望をもって暮らせる共生社会の実現に向け、認知症基本法の早期成立をめざしたい。施設等においても認知症の利用者に対する手厚いケアが可能となるよう、報酬上適正に評価されるよう見直しが必要）

2－認知症患者が地域で暮らせる社会づくりが必要だと考えますか？

○

理由（誰もが住み慣れた地域で安心して老後を暮らせるために、医療、介護、住まい、生活支援サービス等の支援を地域の中で受けられる「地域包括ケアシステム」の構築を加速しなけれ

ばならないと考える)